

奥羽大学報



第3講義棟

目次

第3講義棟竣工開式式／「奥羽大学自己点検・評価報告書-歯学部・大学院歯学研究科-」の刊行	2
献体者合同慰霊式／平成19年度科学研究費補助金	3
第13回奥羽大学歯学部歯科医学教育者ワークショップ／第12回歯学部教員研修講演会	4
(薬)衛生化学実習における禁煙指導／(薬)1年生早期体験学習／(歯)医療系大学間共用試験特別実施の再試験	5
第43回奥羽大学歯学会／第4回東北大学バイオサイエンスシンポジウムで東北大学総長賞受賞講演	6
第6回日韓合同注射薬臨床情報学シンポジウム 郡山／交通安全講習会／学長杯球技大会	7
父兄会	8
(歯)歯科医師臨床研修マッチング参加登録／薬学部キャリアガイダンス	9
学友会活動記録	10
第16回奥羽大学公開講座／平成19年度後期進学相談会日程	11
大学見学／大学院特別セミナー／附属病院	12
私が薦める一冊の本	13
余滴／同窓会	14
同窓生のひろば	16
人事／慶弔／郡山自転車ロマン紀行(第2回)	17
平成19年度前期定期試験日程(歯・薬)	別刷

114

第3講義棟竣工開扉式

昨年8月より、体育館南側に建設が進められておりました第3講義棟（鉄筋コンクリート造・地上3階建て、床面積2,366㎡）が完成し、平成19年5月30日(水) 10時20分より、安積国造神社の宮司による竣工開扉式が執り行われました。

式には、影山英之理事長、清水秋雄学長、大学関係者及び施工関係者が出席し、完成を祝いました。

また、理事長、学長、事務局長によるテープカットが行われ、その後、建物内の内覧会が催されました。

第3講義棟は、身体障がい者対応の昇降機を設置し、すべてに省エネルギー措置を施した、人にやさしく、環境にもやさしい建物になっております。

講義室は、1階に120人収容を3室、2階・3階に1室ずつ、225人収容を2階・3階に1室ずつ配置しております。室内に柱を配置しないPC工法により、室内により広いスペースが生まれました。学生一人ひとりの机上面積を広くし、個人スペースを十分に確保しました。また、椅子の座り心地も改善し、より快適に過ごせるよう配慮いたしました。

スクリーンやプロジェクタ等のさまざまな最新のAV装置を講義室に完備し、より幅広い教材の活用が可能になりました。学内の講義だけでなく、学会や講演会など大学の内外の人に多く利用していただける建物として完成しました。

(鈴木 守)



「奥羽大学自己点検・評価報告書

—歯学部・大学院歯学研究科—」の刊行

本年6月に2006（平成18）年度「奥羽大学自己点検・評価報告書 —歯学部・大学院歯学研究科—」の刊行にいたしました。本来ならば、奥羽大学全体として発刊すべきものですが、今回は「大学基準協会」への加盟のために、歯学部と大学院歯学研究科だけで報告書をまとめました。この自己点検・評価では、教員の教育・研究・診療・学内運営・社会貢献の5項目について各教員から申告してもらい、これら5項目の5段階評価を総合的にそれぞれの職掌を勘案して評価し、その結果は「通知票」として全教員にフィードバックしました。また平均評価点が3.0未満の教員の一部には、学部長と評価委員長が協議してコメントを付して激励しました。報告書では、個人情報保護の点から、学部・大学院教員全体を総合的な評価として図示し、各教員自身がどの位置にあるかが分かるように作成しました。さらに外部評価委員会を設けて、3名の有識者から外部評価も受けました。

本大学では、2007年4月1日(日) から任期制が適用されたのに伴い、自己点検・自己評価がそれに関与してきます。奥羽大学としての自己点検・自己評価は、5年ごとに行うことになるでしょうから、平成23年度には実施して公表しなければなりません。そのときは歯学部、大学院歯学研究科だけでなく、薬学部、事務局、図書館などを含めて、全体として力を合わせて実施しなければなりません。全学の関係の皆さんにはそれに対する準備かたがた、銘記しておいていただきたいと思います。(丸井 隆之)

献体者合同慰霊式

平成19年度の「奥羽大学献体者合同慰霊式」は、6月8日(金)午後1時より郡山市片平町の霊鷲山常居寺において厳粛に執り行われた。

式にはご遺族、白菊会会員ならびにご来賓の方々のご臨席を賜り、本学からは清水秋雄学長をはじめ、教職員および本年度系統解剖学受講の第2学年全員が参列した。はじめに、昭和47年開学以来歯科医学の教育研究のために尊い献体をされた1,349柱の御霊に対し霊鐘ならびに黙祷を捧げ、お導師様の読経のなか、平成18年度成願者22柱のご尊名が拝唱され霊札納塔の儀が行われた。

引続き、清水秋雄学長が式辞を述べ、学生代表新井泰幸君の追悼のことばに続き、天野義和歯学部長、学生の石川昌宏君、入江亜希さんによって献花が行われ、ご献体を賜った方々ならびにご遺族に感謝し、ご冥福を心からお祈りした。最後に、参列された方々の焼香が行われ、慰霊式を滞りなく終えた。

慰霊式終了後、常居寺本堂において献体者の方々のご冥福をお祈り申し上げながら、追善供養が行われた。(伊藤 一三)



平成19年度科学研究費補助金

平成19年度科学研究費補助金の交付が決定した。採択者は下表の通りである。昨年の秋に本学から102件の申請を行い、今回は16件20,700,000円が交付された。うち、継続研究が10件、新規採択は6件である。

平成18年度の実績では、85件の申請中16件が採択され、交付金額は25,600,000円であった。今年度と前年度を比較すると申請数は17件増加したものの、交付金額は4,900,000円下回る結果となった。

しかし、今年度からは基盤研究において研究者が使用できる直接経費だけでなく補助金を管理する研究機関(本学)にも間接経費が配当されることとなり、合計3,960,000円を本学で使用できることとなった。

来年度はさらに申請数の増加を図り、採択率のアップに教職員が全力で取り組みたい。(春日 彰恵)

(単位：円)

研究 科目	区 分	研究代表者		交付額 (直接経費)	交付額 (間接経費)
		所 属： 職	氏 名		
若手 研究 B	新 規	歯学部：助 手	安藤伊都子	3,000,000	0
		薬学部：助 手	木田 雄一	1,100,000	0
	継 続	歯学部：講 師	金 秀樹	700,000	0
		〃：助 教	玉井利代子	700,000	0
	〃：助 手	松沼 礼子	1,300,000	0	
基盤 研究 C	新 規	歯学部：教 授	横瀬 敏志	1,800,000	540,000
		〃：教 授	廣瀬 公治	1,800,000	540,000
	継 続	〃：教 授	鈴木 陽典	100,000	30,000
		〃：教 授	堀内 登	1,300,000	390,000
		〃：教 授	清浦 有祐	600,000	180,000
		〃：教 授	浜田 節男	900,000	270,000
	新 規	薬学部：教 授	衛藤 雅昭	1,800,000	540,000
		〃：講 師	阿部 賢志	2,900,000	870,000
継 続	〃：教 授	米原 典史	800,000	240,000	
	〃：准教授	柏木 良友	1,200,000	360,000	
萌芽 研究	継続	〃：教 授	上野 明道	700,000	0
合 計				20,700,000	3,960,000

第13回奥羽大学歯学部歯科医学 教育者ワークショップ

前回の平成19年2月24日(土)、25日(日)に引き続き東海大学理学部教授・同大学教育研究所長安岡高志先生をチーフタスクフォースにお迎えして、平成19年5月26日(土)午前9時から午後4時まで、奥羽大学5号館2階で開催された。

午前中は安岡教授の「教育・授業具体的目標を定める－共通の授業目標の設定－」と題する演題で講演を頂いた。よい授業の条件として安岡教授は、1. 学生の能力に適した方法で教材を編成し、説明する。2. 学習の環境を作る。3. 学生が独立した自律的な学習者になれるように支援する。4. ティーチングを省みて評価するとの提言があった。

午後からは「共通の授業目標の設定」をテーマに32名の歯学部教員(教養系3名、基礎系6名、臨床系23名)が参加した。4グループに分かれて、KJ法による達成目標の抽出と具体的な対策・行動目標について、各グループで発表・討論が活発に行われた。授業を通して歯学部学生に身につけさせたいこととしては「人間性豊かな歯科医師」、「患者さんの痛みのわかる歯科医師」、「国際感覚を持ち世界の医療事情に精通してほしい」、「歯科医学の知識と技術を習得する」などの提言があった。また、教員としては「挨拶の徹底」、「学生の顔と名前を覚える」、「講義・実習開始10分前に行動を起こす」などの貴重な意見があり、有意義なワークショップであった。なお、本ワークショップは、今後以下のような予定が組まれている。

第3回	開催日	7月29日(日)
(通算第14回)	内 容	共用試験 CBT 問題作成講習会
第4回	開催日	8月4日(土)・5日(日)
(通算第15回)	テーマ	PBL チュートリアル
第5回	開催日	9月1日(土)・2日(日)
(通算第16回)	内 容	共用試験 CBT 問題作成講習会

(浜田 節男)



第12回歯学部教員研修講演会

平成19年5月30日(水)に臨床講義室で、歯学部モデル・コア・カリキュラムの完全実施のために、全教員を対象に講演会を開催した。

まず、天野義和歯学部長からカリキュラム実施の重要性についての説明があり、次に本学モデル・コア・カリキュラムについて、横瀬敏志カリキュラム委員長より1・2年生では一般教養と専門科目の系統教育、2・3・4年生では基礎と臨床の統合教育などの科目を開講し、5・6年生は診療参加型臨床実習としたカリキュラム構成となっており、全体の60%を全国共通の項目で構成し、残りの40%を本学独自の項目で構成しているとの説明がなされた。

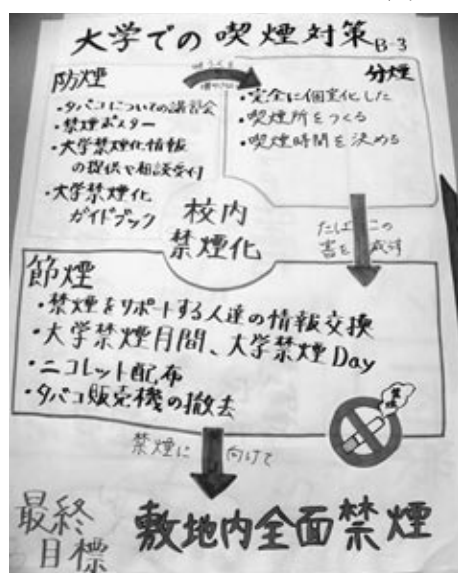
本学独自の項目の中には、「人間性豊かな歯科医師」を育成する歯科医療人間学があり、態度教育、キャリアアップ学習(施設見学)、コミュニケーション技能、医学英語の4ユニットによって、1年生から4年生までじっくりと学ぶきめ細かな教育を目指していると、科目担当責任者として最後に説明を行った。

(齋藤 高弘)

(薬) 衛生化学実習における禁煙指導

薬学部3年生前期衛生化学実習では、実験型の実習に加えて問題解決型実習として「禁煙指導」を取り上げました。学生は提示されたケースについて、書籍やIT上の情報をもとに設問に答えていき、まとめとして、班別に「奥羽大学の喫煙対策」または「学校薬剤師としての禁煙指導」に関する戦略を模造紙に書き、発表会を行いました。斬新なアイデアも多く見られ、学生の喫煙対策のアプローチの一つとして有効ではないかと考えています。

(押尾 茂)



学生によるポスター作成

各診療科、薬局、およびナースステーションを見学しました。保険薬局では主として薬剤師の責務、リスクマネジメント、および患者さんへの接遇等を学び、本学附属病院においては、診療の流れや小児患者さんへの心配り、院内薬局では麻薬、調剤、および歯科用薬品の払出・管理、病棟では薬剤管理指導業務を行う上でのカルテの読み方、患者さんとの接し方、臨床検査値、薬歴、看護記録および病棟チーム医療の説明を受けました。その後スモール・グループ・ディスカッション(SGD)を実施し、その発表を通して薬学の専門家になるための知識の習得と患者さんへの接遇のあり方に関心が高まっていることが認識できました。この成果はポスターにまとめ、7月現在5号館5階に展示しております。

最後に、本学習の実施にあたり、多大なるご指導、ご尽力を賜りました各施設の諸先生方、歯学部および薬学部の教員各位および事務担当者に御礼申し上げます。

今後も奥羽大学薬学部は「医療現場に役立つ薬剤師、地域に求められる薬剤師の育成」に努力する所存でございますので、何卒ご支援とご協力をお願い申し上げます。

(多田 均)

(歯) 医療系大学間共用試験特別実施の再試験

平成18年度の本学4学年を対象に、平成19年2月27日(火)ならびに3月11日(日)に日本歯科大学生命歯学部を試験会場として実施されました共用試験特別実施の試験結果が、医療系大学間共用試験実施評価機構から先般送られてきました。その結果をもとに、合格基準に達していない本学学生に対する再試験を実施いたしました。なお、この試験は5学年における診療参加型臨床実習を行うにあたって、合格基準をクリアしていることが必要となるためです。

知識を評価するCBTについては、6月16日(土)に6ブロックに分けた再試験を本学5号館の情報処理室を使用して行いました。また、

(薬) 1年生早期体験学習

今年度の早期体験学習は、保険薬局が5月25日(金)、附属病院が6月1日(金)および8日(金)にそれぞれ行われました。今年も郡山市薬剤師会をはじめ多くの施設のご協力により無事終了することができました。この実習は入学間もない1年次に医療人としての薬剤師の活躍を自分の目で確かめ、医療チームの一員としての薬剤師の役割を見聞することにより、薬学を学ぶ動機付け、心構え、および学習意欲の向上を目的にしております。

今年度は保険薬局18施設、本学附属病院の

技能・態度を評価する OSCE については、6月23日(土)ならびに6月26日(火)に本学附属病院棟および中央棟実習室を試験会場に再試験を行いました。共用試験特別実施ならびに再試験を受験した学生諸君の臨床実習での成果を期待しています。

(鎌田 政善)

第43回奥羽大学歯学会

第43回奥羽大学歯学会が6月16日(土)に第2講義棟で開催されました。学会長である天野義和歯学部長の開会の挨拶で始まり、計18演題の発表がありました。

発表内容は歯科基礎医学の研究から臨床症例に関する検討、新たな診療システムの構築や学生教育に関するものまで広範囲なものでした。発表後の質疑応答も活発で、熱心な討論が繰り広げられました。また、当日は歯学会の評議員会と総会も開催され、学会のさらなる発展を目指した議論が交わされました。

最後に鈴木康生大学院研究科長の閉会の挨拶があり、終了となりました。次の第44回歯学会は11月10日(土)に開催予定です。さらに多くの演題発表と活発な討論が期待されます。

(清浦 有祐)

第4回東北大学バイオサイエンス シンポジウムで東北大学総長賞 受賞講演

6月4日(月)に仙台市の仙台国際センターで第4回東北大学バイオサイエンスシンポジウムが開催されました。このシンポジウムで歯学部口腔病態解析制御学講座の鄧雪助手が東北大学総長賞受賞講演をおこないました。講演題目は「Alendronate と免疫刺激物質によるヒスタミン合成酵素の誘導」で、鄧助手の研究テーマである骨吸収阻害剤の免疫薬理学的作用に関するものです。鄧助手は3月に東北大学大学院歯学研究科を卒業しましたが、卒業時に最も優れた研究業績を残した大学院生に与えられる東北大学総長賞を受賞しました。今回の受賞講演は、その栄誉を称えておこなわれたものです。

最近、骨吸収阻害剤である Alendronate が顎骨壊死や骨髄炎をおこすことが報告されており、この副作用の発現メカニズムを明らかにすることは歯科医学における緊急性を要する重要な研究テーマの一つです。鄧助手の研究は、細菌の内毒素に対する免疫応答を Alendronate が促進することによって、顎骨壊死や骨髄炎のおこる可能性を示唆したものです。鄧助手は本研究に新たな実験系を加えて本学でも引続きおこなっており、さらに詳しいメカニズムが明らかにされることと思います。

(清浦 有祐)



第6回日韓合同注射薬臨床情報学 シンポジウム イン 郡山

4月21日(土)、22日(日)に奥羽大学を会場として上記シンポジウムが開催されました。本シンポジウムは日本注射薬臨床情報学会が主催し、日本病院薬剤師会と韓国病院薬剤師会の協力により隔年で日本と韓国で開かれているものです。内容的には輸液・注射薬が関与する全ての分野で、特に配合変化・静脈栄養法についての議論が活発であるところが特徴です。

今回は東海林徹薬学部教授が実行委員長を務めた関係から本学を会場として使用させて頂き、第2講義棟では口頭発表・教育講演・招待講演を、カフェテリアメモリーではポスター発表と企業展示を企画しました。また、ウエルカムレセプションは郡山ビューホテルアネックスにて催されました。

本学からも鈴木留美先生(薬学部助手)がポスターセッションにて発表を行いました。

今回の参加者は韓国から31名、日本からは(北は北海道・旭川から南は九州・鹿児島まで)150名と、200名近くにのぼり盛会裡に終了することができました。なお、来年は韓国・済生島で開催される予定となっています。

最後になりますが、本シンポジウムの運営に当たり、当初より御協力・ご尽力頂きました本学関係者の皆様はこの場を借りて心より御礼申し上げます。(倉本 敬二)



交通安全講習会

6月13日(水)午後5時30分より、第2講義棟において、平成19年度交通安全講習会が開催された。本講習会は従来記念講堂で行われていたが、記念講堂の諸工事のため、第2講義棟の1階で歯学部学生、2階で薬学部学生および教職員に分かれて開催された。講師には郡山北警察署高橋雄次交通課長にお越し頂き、講演と映画の上映が行われた。

講演では、これから夏に向かい、暑くなると集中力が低下するので安全運転を十分心がけること、また飲酒の機会も増えるが、飲酒運転による事故の悲惨さを十分理解すること、前日の飲酒でも、事故になった例が多いこと、飲むと判断力が低下するので、飲まないうちに帰りの段取りを立てておくことが肝要などの話があった。

(鈴木 陽典)



学長杯球技大会

今年も学長杯球技大会を5月26日(土)、27日(日)の2日間にわたって開催し、無事に終わることが出来ました。今年もバレーボール、フットサル、ソフトボールの3種目に多くの参加が申し込まれ、学友会員も一丸となって当日まで準備を進めました。私達学友会としても、先輩方引退後、新入生も加わり新しい組織での初めての大きな行事だったこともあり、手探り状態で不安が募りましたが、学生課や参加チーム、競技審判をしてくださったサークルの方々や、学友会の先輩方の御協力

のおかげでスムーズに進行することができました。

残念なことに、前日の大雨によりグラウンドが使用できなくなりソフトボールが中止になってしまい、2種目での開催となりましたが、研修医の方々や先生方、学年・学部を問わず多くの学生が参加して下さったおかげで、白熱した試合で活気のある大会となりました。参加者のそれぞれがスポーツマンシップに則り、球技を楽しんだことと思います。

まだまだ課題は山積みですが、今回の経験を活かして次の学祭へ向けて努力をしていきます。

最後に、この大会を開催するにあたり協力して下さった先生方、研修医や学生課、そして学生の皆様、本当に有難うございました。

バレーボール1位：チームまきづめ
2位：tricker's fan
3位：出口はベジータ

フットサル1位：リスクイー
2位：スカイハイ
3位：チルカポーネ

(西山 小百合)



▲ フットサル



◀ バレーボール

父兄会

(歯)父兄会総会・保護者懇談会

5月12日(土)に、歯学部の父兄会総会と保護者個別懇談会が開催された。個別懇談は今年度最初の開催となるため、昨年度の成績などの説明を求めるとご父兄らが来校した。面談に臨んだ保護者は164組で、例年を若干下回ったが、学年主任やクラス担任の教員との熱心な面談は、予定時間を越えても続いていた。(白土 孝)



(薬)父兄会総会・保護者懇談会

今年度の薬学部父兄会の第1回幹事会及び第2回総会が5月18日(金)に開催され、65名のご父兄が出席しました。総会の後、1年生の父兄は授業を、そして2、3年生の父兄は実習の参観を行いました。また、申し込まれたご父兄を対象としてクラス担任との個別懇談も実施しました。

(安藤 政明)



歯学部父兄会「地域会」

歯学部父兄会地域会は6月9日(土)の大阪を皮切りに、今年も全国4会場で開催された。参加人数は大阪51名、仙台23名、東京78名、福岡54名の合計206名であった。昨年より若干少なめではあったが、集まったご父兄は大変熱心で、各地ともおおむね盛況であった。今年の会合では、「学生生活の現況と今後の方針」、「新カリキュラム」、「歯科医療人間学」、「薬学部の特色と現状」などをスライドで紹介し、好評を博していた。(設楽 民雄)



(歯) 歯科医師臨床研修マッチング 参加登録

平成19年度歯科医師臨床研修のマッチング参加登録が開始されました。本学では平成19年6月29日(金)に5号館3階情報処理室にて実施しました。対象は6学年101名の内、自宅で実施予定の学生を除く52名でした。事前にEメールアドレス未所持者を把握しておき、大学からEメールアドレスを付与するために青木准教授にご尽力いただき、当日を迎えました。

当日のアチーブメントテスト終了後16時30分から、大野学年主任、高橋臨床研修指導医連絡会委員長、今年初めての試みとしてさらに6学年のクラス担任と臨床研修指導医連絡会委員、プログラム委員ら総勢10数名の教員が指導にあたることにしました。今年度は事前にマッチング参加登録画面のコピーを6学年全員に配布し、必要事項の下書きを行わせました。さらに、クラス担任が添削する入念

な準備をしていたことと、多数の教員の補助により、参加者全員がユーザーIDを取得するまでに1時間もかからず、非常にスムーズに参加登録を無事終えることができました。

今後は、各自希望している研修施設の説明会、見学会に出向き、順位登録を行う予定です。6年生全員が、希望する研修施設にマッチし、卒業試験、国家試験の合格により、歯科医師臨床研修を開始できることを切に期待します。(清野 晃孝)

薬学部キャリアガイダンス

「MRの一日」

6月27日(水)12時20分から、第2講義棟第1教室において、薬学部3年生を対象にセミナー形式で講演会を行いました。参加者は40名でした。MR (Medical Representative) とは医薬品メーカーの医薬情報担当者ですが、ジェネリック医薬品のメーカーでMRとして働いている早坂充氏に、その仕事の内容について体験談をもとに紹介していただきました。いくつかの失敗例も交えた講演内容は明快であり、学生にとってMRという職種についての理解は比較的容易であったと思われますが、「コミュニケーション能力はどの程度必要か」という質問がその場に出されたほか、終了後も「MRとして働く場合の女性の適性」などについて質問する女子学生の積極的な姿が見られました。

(安藤 政明)



日医工(株)仙台営業所
MPS チームアドバイザー 早坂 充氏

学友会活動記録

○バスケットボール部

北日本デンタル

平成19年5月3日(木)～6日(日)

新潟市民体育館

男子3位

女子優勝

○ラグビー部

関東メディカルセブンス

平成19年5月25日(金)～27日(日)

埼玉県熊谷ラグビー場

リーグ戦 対東邦大学 22-17 勝ち

対帝京大学 12-10 勝ち

トーナメント進出

対筑波大学 0-50 負け

○ゴルフ部

関東歯科大学春季大会

平成19年5月27日(日)

栃木県那須町伊王野カントリークラブ

男子団体3位

個人 正木 孝平 3位

女子団体優勝

個人 山城絵美子 優勝



ゴルフ部女子 団体優勝

○フットサル部

フィンタカップ

平成19年5月20日(日)

フットサルサイト郡山

優勝



フットサル部

バレーボール国体選手へ選抜される

歯学部4年の丸山剛平君は、大学のバレーボール部でプレーするかたわら、市内のクラブチームにも所属し活躍している。このチームの主要メンバーである丸山君は、国民体育大会の選手に抜擢された。国体は今年10月の本大会に向けて、さまざまな競技においてその予選が行われており、9人制バレーボール競技もこれから東北地区大会が開催される。授業や試験で多忙な丸山君だが、持ち前のパワーで国体出場を勝ち取ってもらいたい。



第16回奥羽大学公開講座

本学では、毎年生涯学習の一環として、専任のスタッフによる公開講座を開催しています。

この秋、みなさんお誘いあわせの上、ぜひお越しください。

○メインテーマ

「奥羽大学発 健康宣言2007」

○開催日

8月25日(土)、9月8日(土)、9月29日(土)、10月13日(土)

○開講時間

12:30開場

13:00~14:00 1時間目

14:15~15:15 2時間目

※9月8日(土)は2コマ連続での開講です。
(途中休憩)

○会場 第3講義棟

○担当・演題 右記参照

期日	時間	講師・テーマ
8/25 (土)	13:00 ~ 14:00	歯学部 高田 訓 教授 「潜在能力を発揮させるマウスガード」
	14:15 ~ 15:15	薬学部 押尾 茂 教授 「男性不妊症治療の現状と将来」
9/8 (土)	13:00 ~ 15:15	薬学部 永井正博 教授 「福島近県の薬用・食用植物と有毒植物」 薬学部 藤井祐一 准教授 「福島近県を起源とする伝統薬(漢方薬を含む)とその構成する生薬」 講義終了後〈薬用植物園見学〉
	13:00 ~ 14:00	歯学部 福井和徳 教授 「歯並びと健康」 - 歯科矯正の立場から -
9/29 (土)	14:15 ~ 15:15	歯学部 浜田節男 教授 「骨粗しょう症について」
	13:00 ~ 14:00	歯学部 鈴木康生 教授 「かむことと健康について」
10/13 (土)	14:15 ~ 15:15	薬学部 野沢幸平 教授 「健康は良き自然環境から」 - 環境保全に貢献するカビ達 -

平成19年度後期進学相談会日程

8月28日(火)	大 宮	大宮ソニックシティ	9月14日(金)	高 崎	高崎サンパレス
9月 3日(月)	青 森	青森グランドホテル	15日(土)	横 浜	横浜新都市ビル(そごう)
〃	甲 府	ベルクラシック甲府	19日(水)	水 戸	水戸プラザホテル
4日(火)	八 戸	八戸グランドホテル	11月12日(月)	大 宮	大宮ソニックシティ
〃	松 本	ホテルブエナビスタ	13日(火)	横 浜	横浜新都市ビル(そごう)
5日(水)	盛 岡	ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング	15日(木)	新 宿	新宿 NS ビル
〃	長 岡	ホテルニューオータニ長岡			
〃	長 野	ホテルメトロポリタン長野			
6日(木)	秋 田	ホテルメトロポリタン秋田			
〃	宇都宮	マロニエプラザ			
7日(金)	新 潟	ホテル新潟			
10日(月)	仙 台	仙台サンプラザ			
11日(火)	山 形	山形テルサ			
12日(水)	福 島	サンパレス福島			
13日(木)	郡 山	ホテルはまつ			

大学見学

6月から7月にかけて、次の4校の生徒が本学を見学に来ました。

- 6/19(火) 東白川農商高等学校1年生34名
 6/29(金) 浪江町立津島中学校2年生13名
 7/ 3(火) 福島東高等学校2年生70名
 7/10(火) 郡山市立郡山第二中学校3年生5名

いずれの学校も、まず大学の概要の説明を受け、それから実際に、薬草園や真新しい第3講義棟などの施設、あるいは実習等の授業を見学して廻りました。メモリーでの学食体験では料理のみならず、その雰囲気、心ゆくまで楽しんでいました。そして、皆、満足した様子で大学を後にしました。

(榊原 直文)

大学院特別セミナー

平成19年7月12日(木)に東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科、口腔病理学分野の山口朗教授を講師に迎え、大学院総合セミナーが開催された。山口教授は骨芽細胞の分化機構の解明をメインテーマとして研究しており、世界的に活躍している。今回のテーマは骨代謝研究の最前線で、その内容は骨の発生学から始まり、進化の過程で骨がどのように形態を変化させてきたかをシグナル因子と形態形成遺伝子の関係から解説した。続いて、骨疾患と骨再生療法の現状とその未来について基礎的な観点から説明し、今後の骨研究の方向性を示した。また、最新の話題として骨組織そのものが内分泌器官としての働きがあることを紹介し、骨代謝研究の最先端の内容も合わせて解説した。参加者は大学院生を中心に基礎系や臨床系の教員も多く集まり、講演後は多くの質問と活発な討論がなされ、大変有意義な大学院セミナーであった。

(横瀬 敏志)



附属病院

歯学部6年臨床実習修了式

歯学部6年(平成18、19年度)臨床実習修了式が平成19年6月29日(金)13時30分から、臨床講義室に6年生が診療着にて集合し、関係者が見守る中、厳粛な内に挙行されました。清野晃孝クラス担任の司会で天野学部長から、臨床実習で得た知識と技術、態度を今後の6年生として学習と学生生活に十分生かすようにとの叱咤激励があり、続いて清野病院長からは、コア・カリキュラム実施における15か月にわたる臨床実習の意義と今後の学習に対する心構えと注意事項についての訓辞がありました。

今年の6年生は進級後、3か月間臨床実習を実施した学年であり、これまでの15か月にわたる臨床実習を振り返り、今後の学習への更なる奮起を促す、良い機会でもありました。

(清野 晃孝)



平成19年度第1回臨床研修歯科医派遣式

去る7月6日(金)、平成19年度歯科医師臨床研修Aプログラム22名中、前期派遣臨床研修歯科医9名の協力型臨床研修施設派遣式が挙行された。9名は呼名起立後に清野和夫病院長より「技術的な面も当然であるが、さらに社会人的常識を身につけ、身だしなみ、健康に気をつけるよう」訓辞があった。続いて高橋和裕臨床研修プログラム委員会副委員長より、複合型歯科医師臨床プログラムの特色と修了認定について説明があり、次いで杉田俊博臨床研修プログラム副責任者より協力型臨床研修施設での研修心得についての訓話があった。その後、9名の研修医各々が派遣先施設の所在県名と決意を述べ、参加者全員の激励の拍手に見送られた。前期派遣の研修医の研修先は9施設(北海道1(初)、福島県5、茨城県1、栃木県1、東京都1)に派遣され、その期間は10月27日(土)までの4ヶ月間である。人間性と技術を向上させ、健康に気をつけ経験を積まれる事を期待する。

(高録 伸郎)



私が薦める一冊の本

『なぜ偉人たちは教科書から消えたのか』

(河合 敦 著、光文社)

私は歴史小説が比較的好きで、山岡荘八や司馬遼太郎等の作品を多数読んでおり、また、歴史に関するテレビ番組もよく見ていた。しかし、近年の番組内容で気になっていたのがその筋で第一人者とされる人が披露している事象と、かつて自分が本や教科書によって得た知識とで、異なる部分があった事である。そこである日、本屋で見つけたのが今回ご紹介する本書である。気になって直ぐさま購入し、読んでみたところ、既成認識を覆される内容が多々認められた。その中で最もインパクトがあったのは、聖徳太子は実在しなかったという説であった。国の紙幣に幾度となく登場し、偉人と目されていた人物が実在しない。これが真実であったなら、日本国としては由々しき事態である。ただ、彼にまつわる事柄の数々は鵜呑みにできないことも確かである。しかし、有名人は後付けでエピソードが過分に修飾されるものでもある。同時に人の話を聞く事に関しては、訓練次第で10人近くいける可能性を否定できないので、このエピソードに関しては眼を瞑るとしよう。しかし、本人自体が架空だったとなると、この説には私としてはついていけない。

次に、鎌倉幕府の創立といえど否応なく1192年と大多数の方が認識されているはずである。しかし、最近では1185年という説が有力らしい。殆どの方が年号を覚えるのに「いい国造ろう」と覚えたはずであるが、これからは「いい箱作ろう」になるのだろうか？幕府創立が「いい箱」では如何にもしょぼい。

以上から、歴史は過去の事象であるにも拘わらず、刻々と変化を遂げている模様である。

自分が蘊蓄垂れだと認識されている方には、是非推薦したい一冊だと付け加えておく。

(岡田 英俊)

余 滴

マゴットセラピー

5月1日付の産経新聞に「糖尿病などで足が壊死する「難治性潰瘍」で切断しか治療法のない患者に「マゴットセラピー」という治療法を行ったところ、9割の患者が足を切断せずにすむなど高い効果が認められている」という記事がありました。

マゴットとはハエの幼虫、つまりウジのことです。壊死した皮膚にウジをガーゼとともに固定すると、ウジが腐敗した部分を食べ、傷をきれいにするとともにウジの唾液に含まれる物質が微生物を殺す役目を果たし、傷の回復を早めるのだそうです。週に2回ほどガーゼを取り換えれば、2~3週間で効果があらわれるとのこと。

古くからハエは、病害虫や寄生虫であり、有害な疾病を媒介するものという悪評を得ています。しかし、「創傷治療にウジが有効である」ことが数千年も前より、人々に広く認識されていることも事実なのです。例えば、オーストラリアの原住民は数千年前より創を清浄にするためにウジを使用していました。またアメリカ先住民は、動物の血に漬け乾かした布で創を覆うことにより、創にウジを湧かせて創を治療していました。近代にいたっては、戦争中、ウジの湧いた創の方が速く治癒し、結果的にその兵隊は命が助かった事を多くの軍医は目撃してきたといえます。

マゴットセラピーは、抗生物質と外科治療が進歩する以前の1940年代までは、米国を中心に何千という医療機関で実践され、良好な結果を得てきました。それから50年以上の月日が経った現代社会において、抗生物質の多用乱用による抗生物質抵抗性の感染性潰瘍の出現、それに伴い糖尿病や動脈硬化症などといった潰瘍の原因となる疾患が増加・重症化することにより、難治性潰瘍の治療に難渋することとなりました。そこで再び脚光を浴びたのが、マゴットセラピーの有効性というわけです。マゴットセラピーは多剤耐性の病原体など（例えば、メチシリン耐性黄色ブドウ

球菌：MRSA）に対しても効果的な治療結果が得られていますので、難治性潰瘍の治療戦略において非常に有効な手段の一つになりうると考えられています。問題点としては、健康保険の対象外であること（ヨーロッパやアメリカでは補償可）、それから何しろウジですから、患者自身および医療機関におけるウジへの偏見、衛生面における管理体制の確立等が挙げられます。

近年の医学・生物学・生命工学の発展は著しく、再生医療や遺伝子治療などは、もはや神の領域をも侵すほどのレベルに達している感があります。それに対して、ウジによる創傷治療法はなかなか自然の摂理に沿った上手な対処方法だと思われないでしょうか？ウジによる治療法はあくまでもきっかけであって、我々人間とそれ以外の生き物との共存共栄を兼ねた医療および社会づくりにもっとも目を向けていけば、いつの日か、本当に猫も手を貸してくれる時代が来るかも知れないですね。

(清水 啓)

同 窓 会

歯学部同窓会

同窓会学術奨励賞受賞者の決定

本年度から始まった奥羽大学歯学部同窓会学術奨励賞の第1回受賞者が決定しました。今回の奨励賞には同窓生5名の応募があり、どの論文も日頃の真摯な研究活動の成果がわかる大変優れたものでした。選考は、同窓会長が指名した同窓生6名からなる選考委員会によっておこなわれました。内訳は基礎系大学教員2名、臨床系大学教員2名と開業医2名です。各選考委員が最も優れていると判断した論文の執筆者1名を選び、多数決によって受賞者を決定しました。

その結果、第21回卒業生の多田浩之君（35歳）が第1回の同窓会学術奨励賞の受賞者となりました。受賞論文は米国微生物学会の機関誌である「Infection and Immunity」に掲載された「Synergistic effect of Nod1 and Nod2

agonists with Toll-like receptor agonists on human dendritic cells to generate interleukin-12 and T helper type 1 cells」です。この論文は、現在の微生物学免疫学で最も注目されている研究テーマの一つである Toll-like receptor に関する先端的な研究成果をまとめたものです。

多田君は奥羽大学歯学部を卒業後、東北大学大学院歯学研究科博士課程に進学しました。大学院終了後は日本学術振興会奨励研究員として東北大学歯学部で免疫学の研究に従事し、現在は秋田大学医学部病理病態医学講座で研究活動に励んでいます。10月からは米国留学の予定で、国際的な免疫学研究者として活躍することが期待されています。

歯科医療の進歩は、地道な研究の積み重ねの上に成り立つものです。そして、これを担うのは今回の多田君のような優れた若手研究者です。平成20年度の奨励賞の応募締め切りは、来年の3月末となっています。一人でも多くの同窓会員が応募することを期待しております。

(副会長 清浦 有祐)

支部だより

同窓の皆さん、元気で御活躍のことと存じます。この度、山形県支部長を拝命しました3期生の坂下です。よろしく申し上げます。山形県は現在、同窓会会員が35名で構成されております。他校と比較して数的に決して多くはありません。しかし、自由な意見をだし合い、学会、臨床、家庭の悩みなどの相談、家族参加の集い、ゴルフコンペ開催など月並みな活動ですが、年中行事のなかにしっかりと存在しているアットホームな会になっています。山形県支部は、1980年に県人会として発足し、1983年東北歯科大学同窓会山形県支部となり、1985年には山形県支部発会式を行いました。初代支部長佐藤功二先生以来増淵武博先生、足立幸一郎先生、私で4代目ということですが、手元の年譜資料をみながら当時を回想し、なつかしい思い出を巡らせながらもあっという間、現在に至っております。

またこの会を大過なく引っ張っていかなくてはと、身を引き締めているところです。

さて、先日、奥羽大学同窓会評議員会、総会開催ということで、久しぶりに郡山にいつてきました。駅はすっかりきれいになって、ほこりっぽかった当時の記憶とは、大違いでした。

学生時代、解剖実習で通った渡り廊下を思い出しながら会場にはいると、記憶のなかにあった、先輩、同輩、後輩の顔に再会し、あらためてノスタルジックな気分ひたっていましたところ、協議のなかで、新支部長の意見を求められましたが、同窓会本部の活動はほとんど代表者におまかせ状態でしたから、なにやらわからずじまいで、意見等を述べることもできず、出る幕がない状態でした。しかし、同窓会をよりよい会にしていこうという意見等を多く聞くことができました。

また、開業医をとりまく状況は、政治的な制裁としてここぞとばかり責任をとらされた歯科保険点数の大幅なダウン、これにより開業医はほんとうに疲弊しています。経済的圧迫は自分たちの子弟を歯科医にしたいとは思わない状況をつくっています。職業選択の自由はあるにしても、親の働くすがたをみて、父親のような職につきたいと思うのが正常な社会ではないでしょうか？

私たちには、ほんとうに価値あるものを純粹な形で子供たちにつたえる義務があるはず。私たち歯科医が扱う三叉神経は第5脳神経。脳神経中最大、発生学的に最古の歴史をもつ神経系。中脳に直接入力し、脳幹に神経回路をめぐらせ、他の脳神経とのネットワークをもち、ヒトの健康を支配する。口を大切にできない国民の未来はないときりに思うのですが。

(山形県支部長 坂下 好一)

同窓生のひろば



小森谷和之
(歯学部12期生)

同窓のみなさん、御無沙汰しております。

平成元年に東北歯科大学最後の卒業生として出て、当地、群馬に開業して11年となります。

学内では多くの同期生ががんばっており、学報・同窓会報の中に知った名前を見つけるたびに懐かしく思っています。

さて、群馬県支部は会員50名弱といったところです。現在の会員分布からいって、桐生・太田・館林のいわゆる東毛地区の会員が多いのですが、ここ最近では、前橋・高崎などの他地区の会員が増加しています。わたしのいる太田地区も、私のあとは同窓生がいない状況が続いており、いつまでも下っ端状態です。どなたか、太田地区に入られる先生はいないものかと…。

それから近況をとということですが、これといった趣味もなく、診療に追われる毎日の中で気をつけていることと言ったら、健康についてですね。一応体は動かそうと、テニス、水泳などを週に3~5日位やっております。あと増えすぎた体重を気にして、ダイエットなどもやっております。減らないんですけどね、体重。まあ、最近読んだ本にありましたが、30歳代までのダイエットは見た目優先ですが、40歳を越えるとダイエットは健康に直結していくそうです。

数年前、健康になろうと思って、テニスをしていてアキレス腱(右)を断裂し、再建手術、術後入院1週間、片足生活3ヵ月半(右なので当然車の運転もできない)というのを体験しまして、つくづく人間、自分と家族の健康が幸せの第一歩だということを痛感しました。

皆さんも健康管理にはお気を付けください。では、皆様の健康を祈願しつつ、またの機会までさようなら。



原木 憲子
(日文科6期生)

奥羽大卒業生のみなさん、いかがお過ごしです

か。文学部がなくなり、寂しい限りですが、恩師である加藤教授が残られ、新しい奥羽大として、母校がますます発展していくことを期待しています。

さて、私の近況ですが、早いもので大学を卒業してあと少しで10年がたちます。現在は、静岡県の公立小学校で、教員5年目であり、11ヶ月の子の母親をしています。育休中の今、毎日が子供とべったりでストレスがたまることもありますが、子供の成長はめまぐるしく、日々楽しませてもらっています。そして、教員として多くの子供に接してきましたが、やはりわが子は特別かわいいと親ばかぶりを発揮しています。

教員として働いているときは、充実しつつも日々忙しく自分を振り返る時間なんてなかったのですが、今は自分や自分の家族のために使える時間を有効に(時に、いや、かなりだらけることが多いのですが…)使って、掃除・収納や料理、自分磨きなどに育児と共に励んでいます。あと数ヶ月で職場復帰ですが、こんな人生の休み期間が仕事にも生きてくるのではないかと期待しています。前よりは子供の気持ちのわかる優しい先生になれたのではないのでしょうか。

大学に在籍中の頃を思い出すと、いつも一緒にいる6人で、あのメモリーで、アイス1個でよく語ったことや中国研修が懐かしいです。家庭教師やテニスサークルの経験は今に生きています。

よく語った仲間たちは、今はそれぞれの土地で、母親、公務員、看護師、介護士…など、自分の能力をいかしてがんばっています。日文科で共に学んだ仲間が、実は個性的だったことを感じます。今では、お互いの結婚式で

会うぐらいになりましたが、みんな、元気にやってくれているといいなと思います。

それでは皆さんお元気で。

人 事

〈退 職〉

小笠原延郎 助 手 歯 学 部 6月12日付

〈定 年〉

池田 弘一 教 授 歯 学 部 7月6日付

慶 弔

〈結 婚〉

おめでとうございます。

○海野 礼子 歯学部 助 手 4月28日
(旧姓 松沼)

○鈴木 留美 薬学部 助 手 5月20日
(旧姓 佐藤)

〈訃 報〉

謹んでお悔やみ申し上げます。

●歯学部 齋藤 勇
義父 向井 正治 殿 (78歳) 6月1日

●学事部 渡部 梓
祖父 渡部 豊栄 殿 (95歳) 7月3日

郡山自転車ロマン紀行 (連載)

〈第2回〉

宇津峰山～南北朝動乱夢のあと

国道49号線をいわき方面へ走る。阿武隈川に架かる金山橋から宇津峰山まで約14キロ。それ程遠い場所ではない。初夏の風を受けながら、気分は青春時代。大善寺辺りからの風景が牧歌的で、ターナーの絵を思わせる。

国道沿いの谷田川小学校の校舎の上に「うつみねめざして」の大文字が見える。宇津峰山の威容のように、という意味だろうか。その山のひとときわ高い稜線が眼前に迫ってくる。

国道49号線の鈴ノ内が登山道入口。ここからは上り坂。自転車を引っ張ること90分で「御井戸の清水」に着く。ここまで舗装されており、駐車場もある。途中の馬場平という公園風の広場に、次のような由緒書きの案内板がある。

「南朝遺跡宇津峰 この遺跡は興国元年から正平8年までの14年間にわたり、陸奥介鎮守大將軍北畠顯信とその子陸奥の国司大納言守永親王を奉じ、孤軍よく南朝のため奮戦した…」

この山は南北朝時代に激戦があったところで、国指定の史跡になっている。何の予備知識もなく登ってきたが、ここで歴史時間の闇の中に迷い込んでしまう――。

南北朝といえは14世紀中頃のこと。670年も昔の話だ。後醍醐天皇の吉野の南朝と、京都の室町幕府である北朝との内戦だから、歴史の舞台は近畿地方とばかり思い込んでいた。ところがここ宇津峰山が東北における南朝の一大拠点であり、北朝との激戦地だったというから驚きである。天皇親政を理想とした後醍醐天皇は鎌倉幕府を倒し、奥州政府を固めるため忠臣北畠親房とその子顯家、顯信らを東北に下向させた。宇津峰には守永親王



谷田川附近から見た宇津峰山

(後醍醐天皇の皇子^{たかよし}尊良親王の子)や顕信ら南朝側の武将が砦を築き北朝側と攻防戦を展開したが、正平8(1353)年5月落城、14年間にわたる激戦の幕を閉じ、東北の南朝は壊滅した。山頂の「東北勤皇忠烈之阨」はその哀史を悼んでのことであろう。

ところで、郡山地方の一般民衆は南朝、北朝のどちら側に服属していたのだろうか。南朝方は田村庄の領主田村庄司一族、北朝方は



山頂の「東北勤皇忠烈之阨」

安積伊東一族、相馬、岩城、芦名、石川氏が中心で、南朝方は少数派だったようだ。恐らくは戦後の恩賞(領地)をねらって、有利な方についたというのが実情ではなかっただろうか。

「御井戸の清水」は郡山市が選んだ「名水10選」のひとつ。宇津峰山に立てこもった皇族や武将たちの飲料水として使われたことから「御」が付けられたと案内板にある。ここから頂上まで歩きで15分。頂上には「千人溜まり」といわれている広場や史跡碑、南朝の守永親王、後村上天皇、後亀山天皇を祀る石祠などの遺構があり、往時を偲ばせている。眼下に郡山、須賀川が霞んでみえる。

半日あれば行って帰れるお気軽のハイキングコースとしてお薦めしたい。

*文献の案内 伊藤幸治著『東北南北朝・宇津峰』
1997年 400p 私家版
『郡山市史 1 原始・古代・中世』
1975年 p407~427
伊藤喜良著『東国の南北朝動乱』
吉川弘文館 2001

(図書館長 安藤 勝)

<委員会からのお知らせ>

本学報は、同窓生と在学生の保護者あてに送付しております。転居・住居表示の変更の場合は下記までご連絡くださるようお願いいたします。その際、お手数でも宛名シールの番号をご記入いただければ幸いです。なお、皆様からのご意見・ご感想をお寄せ下さい。

連絡先／奥羽大学 総務部 広報担当

奥羽大学報114号(通算No.239)平成19年7月13日発行

発行 奥羽大学
学報編集委員会
委員長 清水秋雄

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
電話 024(932)8931(代) FAX 024(933)7372
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
メールアドレス info@ohu-u.ac.jp

平成19年度 歯学部前定期試験日程

1～4年

学年	試験時間	期 日 お よ び 科 目									
		8/27(月)	8/28(火)	8/29(水)	8/30(木)	8/31(金)	9/3(月)	9/4(火)	9/5(水)	9/6(木)	
1年	9:30～10:30	基礎化学	統計学	生物学	数学	心理学	基礎物理学	英語 I	情報科学	ドイツ語 I	
	11:00～12:00	法学				美術	基礎生物学				
2年	13:00～14:00	物理学	口腔解剖学	英語 II	口腔組織学	社会学	ドイツ語 II	解剖学	口腔生物学	化学	
	14:30～15:30	倫理学									
3年	9:30～10:30	口腔生化学	統合科目 I	生体材料・ 歯科材料学 II	口腔衛生学	歯科放射線学	内科学	口腔細菌学	社会歯科学 II	歯科薬理学	
	11:00～12:00	口腔病理学									
4年	13:00～14:00	口腔外科学 II	冠橋義歯学 II	有床義歯学 II	統合科目 III	口腔外科学 III	歯内療法学	小児歯科学	歯周病学	保存修復学 II	
	14:30～15:30	統合科目 II				歯科矯正学			歯科麻酔学		

平成19年度 薬学部前期定期試験日程

時 限		1	2	3
日 時	学年	授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目
7/27(金)	1年	英 語 I	倫 理 学	
	2年			基 礎 薬 理 学
	3年			
7/30(月)	1年	数 学 I	化 学	
	2年			薬 品 分 析 化 学 II
	3年		薬 品 製 造 学	
7/31(火)	1年		薬 用 植 物 学	
	2年			放 射 化 学
	3年		薬 物 代 謝 学	
8/1(水)	1年	心 理 学	基 礎 物 理 学 論 日 本 文 化 論	
	2年			物 理 化 学 II
	3年		薬 学 英 語 A 薬 学 英 語 B	
8/2(木)	1年	情 報 科 学	有 機 化 学 I	
	2年			有 機 化 学 III
	3年		臨 床 検 査 学	
8/3(金)	1年	医 学 史 心 の 科 学 史	物 理 学	
	2年			統 計 学
	3年		製 剤 学	
8/6(月)	1年	日 本 古 典 文 学 自 己 表 現 論	法 学	
	2年			生 化 学 II
	3年		医 療 心 理 学	
8/7(火)	1年	数 学 II	生 物 学	
	2年			臨 床 生 理 学
	3年		生 物 薬 剤 学	